



1800人が

走った！歩いた！ 伝説の地

第20回
猿鬼歩こう走ろう健康大会

今年で20回目を迎えた猿鬼歩こう走ろう健康大会が9月24日に開催されました。この大会は、柳田地区に伝わる猿鬼伝説ゆかりの地を、自分の体力に合わせて歩いたり走ったりすることで健康づくりと豊かな自然を肌で感じることができると好評です。

距離・年齢別に走ろうの部17部門、歩こうの部3部門が行われ、園児から高齢者まで、県内外から約1800人が参加しました。また、歩こうの部は当日参加ができるようになり、当日の申込みは1700人を数えました。

選手たちは、地元の人やボランティアの声援を受けながら、自分のペースで走り、歩きました。道ばたに咲くコスモスや最盛期を迎えた稲刈り風景など、能登町の秋の自然を満喫しながら心地よい汗を流しました。

〈大会結果〉

- ハイマラソン 高校生〜49歳男子
- ①原田 歩(金沢市) ②中田武弘(金沢市) ③森田達也(六水町)
- ハイマラソン 50歳以上男子
- ①飯田和也(愛知県) ②横 信一(金沢市) ③青木忠雄(神奈川県)
- ハイマラソン 高校生以上女子
- ①西野直美(富山県) ②横 利恵子(金沢市) ③木下めぐみ(愛知県)
- 10 km 高校生〜49歳男子
- ①藤田智哉(六水町) ②石崎 修(富山県) ③加藤一実(金沢市)
- 10 km 50歳以上男子
- ①岡本貞雄(輪島市) ②久利須 隆(金沢市) ③松山和能(津幡町)
- 10 km 高校生〜49歳女子
- ①小蔵紀子(志賀町) ②野村江梨子(白山市) ③井戸田由佳(輪島市)
- 10 km 50歳以上女子
- ①山下富志子(白山市) ②駒井キミ子(羽咋市) ③岡田雅美(かほく市)
- 5 km 高校生〜49歳男子
- ①竹森賢生(輪島市) ②源 直樹(五十里) ③坂本真樹(野々市町)
- 5 km 50歳以上男子
- ①岡田雅宏(珠洲市) ②蔭井義正(新潟県) ③水崎澄夫(福井県)
- 5 km 高校生〜49歳女子
- ①加藤正美(七尾市) ②田保美穂子(珠洲市) ③川上智絵美(輪島市)
- 5 km 50歳以上女子
- ①網島由美子(七尾市) ②酒谷洋子(珠洲市) ③泉崎利恵子(珠洲市)
- 3 km 高校生以上男子
- ①川田悦士(富山県) ②加藤芳正(七尾市) ③毛利健志(七尾市)
- 3 km 高校生以上女子
- ①奥野望美(上町) ②居村香織(珠洲市) ③池田麻衣(柳田)
- 3 km 中学生男子
- ①西尾博行(中能登町) ②又木実信(白丸) ③奥野孝俊(小木)
- 3 km 中学生女子
- ①釣谷帆奈未(小木) ②宮下杏里(輪島市) ③小路さちこ(輪島市)
- 3 km 小学生男子
- ①北野敦也(中能登町) ②山本芳裕(崎山) ③宮本晃介(柳田)
- 3 km 小学生女子
- ①信田有里彩(柳田) ②岩崎加奈(真脇) ③垣内叶和子(珠洲市)
- 歩こう5 km せせらぎコース 288人
- 歩こう10 km やませみコース 142人
- 歩こう15 km 健脚猿鬼コース 39人
- 全員がゴールしました。



能登空港 空の日イベント
賑わいのある空港を目指して

10月1日の「空の日」にちなみ、能登空港でさまざまなイベントが開催されました。

メイン会場となった芝生広場では、能登の特産品を販売するたくさんのテントが並べられ、各市町が自慢の特産品を販売したり、民謡ショーやウルトラマンショーが行われました。また石場がち体験では、たくさんの人が綱を引いて勢いよく石を打ち込みました。ターミナルビルでは、空港クイズ大会や奥能登4市町の首長が出演するインターネットラジオがオンエアされるなど、空港は一日中たくさんの人で賑わいました。



能登空港の土台が固まるようにと実施された「石場がち」



傷病者を迅速に運び出すなごみ職員

「なごみ」で火災避難訓練
さらに安心・安全な施設へ

10月2日、能登七見健康福祉の郷「なごみ」で、火災避難訓練が行われました。オープン2周年を機にさらに安全・安心な施設を目指そうと企画されたもので、訓練は併設する七見デイサービスセンターと合同で行われました。また、避難訓練のあとは、消火器による初期消火訓練と普通救命訓練も実施されました。

プールと温泉施設がある「なごみ」は年間約10万人が利用します。参加した職員は、「安心して施設を利用してもらえるよう今後も訓練をしていきたい」と話していました。

能登ライオンズクラブ防犯図書贈呈式
防犯への謎はこの本で解く

子どもたちに防犯の心得について学んでもらおうと、9月21日能登ライオンズクラブが防犯図書18冊を柳田小学校へ寄贈しました。体育館で行われた贈呈式には全校児童170人が集まり、能登ライオンズクラブ幹事の桶屋政雄さんから児童代表の勘屋祐介くん（6年）へ図書が手渡されました。このあと高木隆信会長が「この本を読んで弟や妹にも教えてあげてください」と児童たちに呼びかけました。人気アニメの主人公である名探偵が登場して解説するというこの防犯図書。このあと、柳田教養文化館にも2冊寄贈されたということです。



「ありがとうございます」とお礼を述べて受け取る勘屋くん

ダム運用の安全を祈願して行われた清め酒



寺田川ダム湛水式
来年春に供給スタート！

まないたぐら 姐倉地区で平成8年から建設が進められていた寺田川ダムが9月末に完成し、安全性や漏水状態などを観測する試験湛水が10月16日から始まりました。発注者や施工業者のほか、地元を代表して姐倉区長の井上茂さんが清め酒を行い、ダムに水を貯めるために水門が閉められました。

ダムの安全を確認した後、来年4月から上水道用水への供給が開始されます。また農業用水については、来年度にパイプラインや揚水機の整備を行い、平成20年4月から供給されることになっています。

第2回全国凧あげ能登大会
能登の風をつかまえた！

凧あげ好きの仲間たちが日本各地から集う全国凧あげ能登大会が10月15日、約250人が参加して柳田植物公園で開催され、さまざまな凧が能登町の空を彩りました。

大会当日は爽やかな風が吹き、絶好の凧あげ日和となりました。はじめに行われた児童親子の部では、地元のお巡りさんと一緒に交通安全を呼びかける凧をあげる小学生たちなどが参加し、元気に芝生広場を駆け回っていました。続いて行われた全国有名凧の部では「うなり」を付けた音のなる凧や、連凧などが大空高く舞い上がりました。また愛知県の田原凧保存会による凧作り教室も催され、ちびっこたちが上手に自分だけの凧を作り上げていました。

午後から行われた能登ふれあい凧あげの部には、町内から8チーム60人がエントリーし最優秀賞には鶴川公民館が輝きました。



真剣なまなざしで「田原の一枚凧作り」にチャレンジする子どもたち



呼吸を合わせて一気に走る！

産業フェスティバル「イカす会」
イカに触れて、食べて、そして感謝する一日

10月8日、県漁業協同組合小木支所で開催され約4,000人が訪れた「イカす会」。会場ではイカの刺身などが無料で振る舞われたほか、イカにちなんだ模擬店がずらりと並び、訪れた人たちをもてなしました。また、小木小学校の鼓笛隊パレードや小木中学校吹奏楽部による演奏、カラオケ大会などさまざまな催しで会場を盛り上げていました。恒例のイカダレースは悪天候のため残念ながら中止となりましたが、イカの町ならではの活気あるイベントとなりました。

■イカダデコレーションコンテスト結果
優勝 杉本運送飲酒運転はイカん(盛隆会) 2位 内浦商店連盟 UP ドラゴン 3位 小木分校水産科



よーいドン！350匹のイカが泳ぐ水槽にみんな一斉に飛び込んだ！毎年恒例のイカのつかみ取りには大勢の子どもたちも参加して生きたイカと格闘しました！

イカ神輿と園児たちの似顔絵入りの袖キリコが会場内を練り歩く！元気いっぱいのかげ声でお祭りムードを盛り上げる小木保育園のお友だち

第1回能登まいたけ祭り
里山の自然が育てたマイタケ

能登の里山を活かしたキノコ栽培に取り組んでいる能登特用林産研究会（能登とくりん研）は、会員が育てたマイタケやハタケシメジなどを披露するイベントを、10月15日に道の駅桜峠で開催しました。能登とくりん研は、露地栽培のマイタケ、ハタケシメジを「能登まいたけ」「能登しめじ」と名づけ、能登町の新たな特産品となることを目指しています。

会場では、能登牛とマイタケを炭火で味わうコーナーがあり、マイタケご飯、キノコ汁なども販売されました。会場となった桜峠は地元の人や観光客が次々と訪れ、盛況になっていました。



天然に近いマイタケは、味や香りがすばらしいとのこと

贈呈式で谷本県知事から記念品を受け取る坂下さん



坂下喜久次さん石川県文化功労賞受賞
能登の生きた歴史を後世に

能登の歴史発掘や伝承、活力ある豊かな地域づくりなど、永年にわたり地域文化財保護などに寄与された坂下喜久次さん（78歳・宮犬）が石川県文化功労賞を受賞しました。

坂下さんは、教員として40年教壇に立つ傍ら、「松波城址庭園跡」「不動寺の埋積珪化木群」を県指定文化財へと導く礎を築きました。また昨年9月には「七尾城と小丸山城」を出版するなど、幅広く地域文化の伝承のために活動しています。贈呈式は10月1日に金沢市の県立音楽堂で行われました。坂下さんおめでとうございました。

戦没者の冥福を祈る遺族会地区代表者



能登町戦没者追悼式・慰霊式
霊前に誓う平和な世の中

日清戦争以来の1,455柱の霊を慰める、能登町戦没者追悼式・慰霊式が、10月4日に内浦第二体育館で行われ、参列者など約300人が出席しました。追悼式では、戦争で亡くなった方々の冥福を祈り黙とうを捧げた後、持木町長が「今日の繁栄の影に、尊い犠牲があったことを忘れず、次の世代に語り継ぎます」と式辞を述べました。この後仏式で行われた慰霊式では、参列者らが次々と焼香し御霊を慰めました。終戦後60年以上の時間が流れ、今の平和な社会で生きるわたしたちに『悲惨な戦争を繰り返してはいけない』と再認識させられた式となりました。

神和住純杯エンジョイテニスフェスティバル
見たい！魅せたい！プロの技



元プロ4人でのエキジビジョンマッチでは、さすがプロと思わせる好プレーが続出！



神和住さんの丁寧な指導を受ける参加者

10月8・9日に、能登町ゆかりの元プロテニスプレーヤー神和住 純さんを招いて「神和住純杯エンジョイテニスフェスティバル」が開催されました。大会には、平井健一さん・平木理化さん・吉田友佳さんの元プロ選手3人も招待され、町内外から参加した27ペアが熱戦を繰り広げました。

また、元プロ選手による子どもや初心者を対象としたテニス教室も開催され、参加した人たちは直接プロから指導を受けました。神和住さんは「テニスを生涯スポーツとして楽しんでください」と話していました。

第11次真脇遺跡発掘調査説明会
太古のロマンに想いを馳せる

真脇遺跡発掘調査団が10月12日、第11次発掘調査説明会を行いました。昭和57年の発掘調査から20年、縄文人は1カ所に定住しないという定説を覆す「長期定住型集落」跡が発掘され全国から熱い視線を集めた真脇遺跡。今回調査されたのは今から約4,500年から4,000年前の住居跡で、長方形と円形の床面の規模が確認されました。これは粘土質の張り床の広がりから判明したもので、焼け焦げた床の一部や鹿の骨、祭祀や墓石と見られる石なども発見されました。また、14日には一般公開され、能登町最古の歴史に触れる1日となりました。



床を張りかえた跡も発掘された長方形の第4号住居跡

にがりの代わりに深層水を使った豆腐作りに挑戦！



PTA 母親研修会
おふくろの味っていいよね

食育に関する正しい知識を学びながら親睦を深めようと、9月28日に小木地区活性化センターで町のPTA母親研修会が開かれました。町内各小中学校の母親代表16人が参加し、食に関する誤った知識などについて講義を受けました。

また食生活改善推進協議会内浦支部で取り組んだ「母と子の料理教室」が紹介され「食育は親の愛情が大切であること、昔は自然に行われていたこと」という説明がありました。この後、参加者は旬の食材や海洋深層水を使った調理実習を行い、和やかに会食をして交流を深めました。